



鳥取県土木工事監督マニュアルの一部改正について（通知）（その４）

技術基準の種類:技術管理
通知日:平成15年 3 月25日

21

第6節 護床工・根固め工		
4-1-6-3	根固めブロック工	2-1-7-3に同じ
第2章 流路		
第3節 流路護岸工		
4-2-3-3	法留基礎工	1-3-4-3に同じ
4-2-3-4	コンクリート擁壁工	2-1-6-3に同じ
第4節 床固め工		
4-2-4-3	床固め本体工	4-1-4-3に同じ
4-2-4-4	垂直壁工	4-1-4-3に同じ
4-2-4-5	側壁工	4-1-4-5に同じ
4-2-4-6	水叩工	4-1-4-7に同じ
4-2-4-7	魚道工	2-5-6-3に同じ
第5節 根固め・水制工		
4-2-5-3	根固めブロック工	2-1-7-3に同じ
第3章 斜面对策		
第4節 擁壁工		
4-3-4-4	現場打擁壁工	2-1-6-3に同じ
4-3-4-8	小型擁壁工	2-1-6-3に同じ【任意測定項目：基準高、幅、高さ、延長】
第8節		
抑止杭・アンカー工		
4-3-8-2	既製杭工	1-3-4-4に同じ
4-3-8-3	場所打杭工	1-3-4-5に同じ
4-3-8-4	シャフト（深礎工）	1-3-4-6に同じ
4-3-8-5	合成杭工	1-3-4-4に同じ

22

4-3-8-6 抑止アンカー工（グラウンドアンカー）

23

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
削孔時	4-3-8-6	・土（岩）質変化位置定着岩質等の確認	・土及び岩の変化位置を、ボーリング柱状図等と比較して定着長を確認する。	段階確認書	確認	1回/土（岩）質の変化毎	
削孔完了時		・長さ、支持地盤	・孔の掘削完了時、削孔径、長さを現地で確認する。 ・削孔の角度、位置について確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本	ただし、1回/1構造物以上とする。
緊張時		グラウトの強度 ・緊張力、定着力、	・供試体によりグラウトが所定の強度に達しているか把握する。 緊張時の施工状況を確認する。 ① 計画最大試験荷重に対する強度、荷重—変位量特性との整合性を確認する。 ② 定着荷重、定着方法を確認する。 ③ 支圧版、台座の強度を確認する。 ④ 緊張装置は、キャリブレーションを行っているか確認する。 ⑤ 定着時緊張力を確認する。	段階確認書	把握 確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本 一般：1回/10本 重点：1回/5本	ただし、1回/1構造物以上とする。 ただし、1回/1構造物以上とする。

第6編 道路編

第1章 道路改良

第5節 擁壁工

6-1-5-5	現場打擁壁工	2-1-6-3に同じ
6-1-5-9	小型擁壁工	2-1-6-3に同じ【任意測定項目：基準高、幅、高さ、延長】
第6節 カルバート工		
6-1-7-6	現場打ちカルバート工	2-1-6-3に同じ【必須測定項目：基準高、厚さ（ $t_1 \sim t_4$ ）幅（内法）高さ h 、延長 任意測定項目：その他図面の寸法表示箇所】

第2章 舗装

第3節 舗装工

24

6-2-3-4	橋面防水工	1-3-6-5に同じ
6-2-3-5	アスファルト舗装工	
6-2-3-6	半たわみ性舗装工	
6-2-3-7	排水性舗装工	
6-2-3-8	グースアスファルト舗装工	
6-2-3-9	コンクリート舗装工	1-3-6-6に同じ
6-2-3-11	ブロック舗装工	1-3-6-5に同じ

第3章 橋梁下部

第4節 橋台工

6-3-4-8 躯体工

25

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
土（岩）質の変化した時	6-3-4-8	・土（岩）質 変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書	確認	1回/土（岩）質の変化毎	
床掘削完了時		・支持地盤（直接基礎）	・監督員は床掘削完了時に、掘削深さ（基準高）を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験（試験費用は別途計上）の試験結果で確認する。	段階確認書	確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書	確認	1回/1引 1-5-5-3参照のこと	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。		把握	一般：1回/1構造物 重点：1回/1引	
躯体完了時		設計図書との対比	設計図書と現地で対比し規格値以内か確認する。 必須測定項目：躯体座標位置、橋座基準高、橋壁間距離、天端幅、敷幅、高さ、天端長、敷長、フーチング厚さ 任意測定項目：中心線変位、翼壁厚さ、翼壁長さ その他図面の寸法表示箇所	段階確認書	確認	1回/1構造物	
沓座の位置決定時		・沓座の位置	・前後の下部工沓座との相互関係及び沓座の高さ等について確認する。	段階確認書	確認	1回/1構造物	

第5節 RC橋脚工

6-3-5-9	RC躯体工	6-3-4-8に同じ【必須測定項目：躯体座標位置、天端基準高、フーチング厚さ、天端幅、敷幅、高さ、天端長、敷長、橋脚中心間距離 任意測定項目：中心線の変位、その他図面の寸法表示箇所】
---------	-------	--

第4章 鋼橋上部

第3節 工場製作工

6-4-3-3 桁製作工

26

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
仮組立完了時（仮組立てが省略となる場合は除く）	6-4-3-3	仮組立精度	仮組立精度について、現地で確認する。 必須測定項目：全長、支間長、主構の組立高さ 任意測定項目：（主桁、主構）の中心間距離・通り・そり・橋端における出入差・鉛直度、現場継手部の隙間	段階確認書	確認	1回/1構造物	

6-4-3-10	横断歩道橋製作工	6-4-3-3に同じ
----------	----------	------------

第5節 橋梁現場塗装工

6-4-5-3	現場塗装工	2-4-4-3に同じ
---------	-------	------------

第6節 床版工

6-4-6.2 : 床版工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
鉄筋組み立て完了時	G-4-G-2	・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているかを確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、有効高さ、間隔、継手方法（継手長結束状況）かぶり及び床版厚について現地で確認する。	段階確認書	確認	1回/1構造物 1-5-5-3 参照のこと	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間打設順序、天候気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。		把握	一般：1回/1構造物 重点：1回/10㎡	

27

第5章 コンクリート橋上部

第3節 工場製作工

6-5-3-2 : プレビーム用桁製作工

第4節 コンクリート主桁製作工

6-5-4-3 : ポストテンションT (I) 桁製作工 6-5-4-5 : プレキャストブロック桁組立工 6-5-4-6 : プレベーム桁製作工

6-5-4-7 : PCホロースラブ製作工 6-5-4-8 : RC場所打ホロースラブ製作工 6-5-4-9 : PC版析製作工

6-5-4-10 : PC箱桁製作工 6-5-4-11 : PC片持箱桁製作工 6-5-4-12 : PC押出し箱桁製作工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
プレストレス導入時、 横締め作業時	6-5-3-2 6-5-4-3 6-5-4-5～ 6-5-4-7～ 6-5-4-12	設計図書との 対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する ・緊張管理計画書 ①引張装置のキャリブレーション結果 ②P C鋼材のプレストレスの管理に用いる摩擦係数 ③P C鋼材の見かけのヤング係数 ・プレストレス時のコンクリートの圧縮強度、緊張力	段階確認書	確認	一般：5％程度 ／総ケーブル数 重点：10％程度 ／総ケーブル数	
プレストレス導入時、 縦締め作業時		設計図書との 対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する ・緊張管理計画書 ①引張装置のキャリブレーション結果 ②P C鋼材のプレストレスの管理に用いる摩擦係数 ③P C鋼材の見かけのヤング係数 ・プレストレス時のコンクリートの圧縮強度、緊張力	段階確認書	確認	一般：10％ ／総ケーブル数 重点：20％程度 ／総ケーブル数	
PC 鋼線鉄筋 組立完了時 （工場製作を除く）		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法（継ぎ手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書	確認	1回／1構造物 1-5-5-3 参照のこと	

28

第6節 床版・横組工

6-5-6-2 : 床版・横組工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
コンクリート打設時	6-5-6-2	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温について把握する。	段階確認書	把握	一般：1回/1構造物 重要：1回/1ロット	
プレストレスト導入時、横締作業時		・設計図書との対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する ・緊張管理計画書 ①引張装置のキャリブレーション結果 ②PC鋼材のプレストレスの管理に用いる摩擦係数 ③PC鋼材の見かけのヤング係数 ・プレストレスト時のコンクリートの圧縮強度、緊張力		確認	一般：5%程度 ／総ケーブル数 重点：10%程度 ／総ケーブル数	
プレストレスト導入時、縦締め作業時		・設計図書との対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する ・緊張管理計画書 ①引張装置のキャリブレーション結果 ②PC鋼材のプレストレスの管理に用いる摩擦係数 ③PC鋼材の見かけのヤング係数 ・プレストレスト時のコンクリートの圧縮強度、緊張力		確認	一般：10%程度 ／総ケーブル数 重点：20%程度 ／総ケーブル数	
PC鋼線・鉄筋組立完了時（工場製作を除く）		・使用材料、設計図書との対比	材料確認 品質規格を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 鉄筋の径、長さ、本数、有効高さ、間隔、継手方法（継手長結束状況）かぶり及び床版厚について現地で確認する。	段階確認書	確認	1回/構造物 1-5-5-3 参照のこと	

29

第8節 橋梁付属物工

6-5-8-9 : 現場塗装

2-4-4-3に同じ

第 6 章 トネル (NATM)

トネル全般

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
		・ 施工状況	・ 監督職員は、設計図書及び施工計画書と現地を対比し、掘削方法、支保工施工方法（吹付、ロックボルト、鋼製支保工）覆工、インパート工の全般について施工状況を把握する。		把握	1回／支保工変更毎	

第 3 節 トネル掘削工

6-6-3-2 ： 掘削工

1-4-3-2と同じ

第 4 節 支保工

6-6-4-3 ： 吹付工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
支保工完了時（支保工変更時）	6-6-4-3	吹き付けコンクリート厚	・ 金属の重ね合わせ寸法、吹き付けコンクリートの厚さが規格値以内か確認する。	段階確認書	確認	1回／支保工変更毎	